

中建協会広報

発行所
 一般社団法人秋田中央建設業協会
 発行人
 田 中 道
 〒010-0951秋田市山王4丁目3番7号
 TEL 018-862-7778
 akenkyo@akenkyo.or.jp
 秋田中央建設業協会 検索



年頭のご挨拶

一般社団法人
秋田中央建設業協会
 会長 **加藤 義光**

新しい年にあたり皆様のご健康とご繁栄を心よりお慶びいたします。

昨年は感染拡大により、行動制限や自粛に始まり、なかなか終息の兆しが見えない中で、当協会の様々な活動も抑制せざるをえない事態になりましたことをまずは深くお詫びいたします。

全国的には感染者が減少してきておりますが、石油価格の高騰や資材の供給不足、又数年の課題となっている担い手確保、職人の不足などのため、我々建設業界にとっては昨年同様に、令和4年も気の抜けない、しかも変化の激しい重要な一年になることは間違いありません。

この様な中で、今年は補正予算と令和4年度当初予算をあわせた15ヵ月予算の編成や、県単事業の所定額計上など、建設事業費の安定的な確保や工事の平準化を県並びに県議会連盟に強力に要望してまいります。

又、長年の事業縮小による人員の削減や、少子高齢社会の到来により、次代の社会資本整備を担う人材の確保に取り組むとともに、新3K「給与・休暇・希望」の魅力ある産業のため、働き方改革、生産性向上にも取り組んでまいります。

市場環境が刻々と変化する厳しい現況下、知恵を絞り、創意工夫で建設業が希望に満ちあふれ、会員企業がますます発展していけるよう、私自身、新しいことへの挑戦や思いきった変革

の先頭に立って皆さんとともに頑張ってもらいます。

会員諸兄におかれましては、安全第一、健康第一で取り組み、各社が更に成長を迎えることを祈念し、年頭のご挨拶といたします。





新年のご挨拶

秋田労働基準監督署長

佐々木 一幸

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃から労働基準行政の推進に、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、秋田県は、少子高齢化の進展や労働力人口の減少が顕著であり、将来も活力ある企業を維持していくためには、人材の確保が不可欠となります。

県内の建設業においては人材不足に対応するため、業界を挙げて様々な取組をされているかと思いますが、秋田労働局では、秋田で働くことのイメージアップにつながる様々な施策を推進しております。

推進に当たって、昨年10月1日に秋田出身の女優「生駒里奈」さんを「秋田はたらく応援大使」に任命し、秋田で働くことの魅力を一緒に伝えていくこととしております。

より若い世代に、自然豊かで魅力のある秋田で働くことへの興味をもたれ、秋田で就労する若者が少しでも増えることを期待しております。

一方で、働き方改革関連法が施行され、長時間労働削減対策としての時間外労働の上限規制等をはじめとした労働時間制度の見直しあるいは雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等の取組が求められています。

人材不足に対応するためには、高年齢労働者や女性が働きやすい環境の整備、あるいは生産性向上を含めた働き方改革に取り組んでいただく必要があります。

昨年の「新語・流行語大賞」に「SDGs」（持続可能な開発目標）がノミネートされるなど、企業を含めた社会全体で取り組んでいく新たな施策が注目されています。

「SDGs」は、17のゴールを設定していますが、働き方改革に関連して、「ゴール8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」などがあ

ります。

具体的な目標として、ゴール8には12のターゲットがありますが、人材不足を解消するために行う施策が、いずれかのターゲットに結びつくことも考えられます。

各企業が働き方改革を実行することは、企業の発展・持続につながり、「SDGs」に貢献することにもなります。

本年も、働き方改革に積極的に取り組んでいただきますよう、また、新型コロナウイルス感染症防止対策を含めた積極的な安全衛生管理活動により、無事故・無災害が継続するようお願い申し上げます。

結びに、本年の貴協会並びに会員の皆様のなご活躍とご繁栄を申し上げ、新年のご挨拶といたします。

2021
12/1
2022
1/15

令和3年度
年末年始無災害運動標語
年末年始も安全作業
あなたが無事故の
キーパーソン

無災害運動

主 催 中央労働災害防止協会 後 援 厚生労働省

まで中絶し人命に被害 - Safe Work, Safe Life - 中央労働災害防止協会 (中災防) 事務局: さいせき事務局 広報課
〒108-0014 東京都港区芝5-35-2 [TEL] 03-3452-6449 [FAX] 03-3453-8034
【ホームページ】 <https://www.jisha.or.jp/> 【E-mail】 kohno@jisha.or.jp

JISHA 中災防



年頭のご挨拶

秋田地域振興局建設部長
鈴木 護

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃より当建設部の事業推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年に続き、新型コロナウイルス感染症に大きく影響を受けた年でした。

本県でも、大型連休やお盆の時期などに感染者数が増加し、8月には県の感染警戒レベルが全県で「4」に引き上げられ、県外往來の自粛を求めるなど、様々な面で不便を強いられました。10月下旬には同レベルが「2」に引き下げられ、現在も感染者数は一旦落ち着いているところですが、ワクチン接種後のブレイクスルー感染や新たな変異株の感染拡大の兆候もみられることから、不織布マスクの正しい着用、手指の消毒、密を避けるなどの基本的な感染防止対策を引き続き徹底していただきますようお願いいたします。

さて、現在、県では令和4年度からの新たな県政運営の指針となる「新秋田元氣創造プラン」を策定しているところです。

新たなプランでは、「賃金水準の向上」、「カーボンニュートラルへの挑戦」、「デジタル化の推進」の三つを「選択・集中プロジェクト」として位置づけ、行政資源を効果的・効率的に投入し、横断的な取組を推進することとしております。

建設産業においても、ICTやIoTの活用、働きやすい職場づくりなどの取組がこれまで以上に求

められるものと思いますので、こうした取組に対する会員の皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

一方で、防災減災や交通基盤の強化に係る施策は、新プランにおいても「基本政策」として、引き続き取り組んでまいります。

秋田港と秋田北ICを結ぶ「秋田港アクセス道路」については、用地買収が進み、一部工事に着手したところです。

その他の道路においても、道路改良工事や橋梁補修、法面対策などを実施し、災害に対応できる道路整備を図ってまいります。

河川事業では、「新波川」や「太平川」において、河川改修工事に伴う橋梁架け替え工事などを進めております。他の河川においても、河川改修工事を進めるほか、伐木や州ざらいなど、適正な維持管理に努め、頻発化・激甚化する水災害に備えた治水対策を推進します。

砂防事業では、土石流や急傾斜、地すべり対策に係る砂防工事のほか、土砂災害計画区域の周知もあわせて実施し、ハード・ソフト両面から、地域の安全と安心の確保に努めてまいります。

また、昨年は新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、一部中止となってしまいましたが、現場見学会や出前講座など、建設業の魅力発信に係る施策にも引き続き取り組んでまいります。

結びに、貴協会並びに会員の皆様の御活躍と御繁栄を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



秋田市雄和 水沢橋



秋田市檜山 太平川 (才蜂橋)



年始のご挨拶

秋田地域振興局農林部長

村上 旬

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

協会員の皆様には、日頃から県農林水産業の振興に格別のご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、農林水産業を取り巻く情勢は、コロナ禍による外食を中心とした需要の減退や米価の下落、さらには、人口減少を背景とした労働力不足が顕在化している一方、ICT・AI等の技術導入の進展など、変革期を迎えております。

こうした中、本県の農林水産業が目指す「競争力の高い経営体の育成」や「複合型生産構造への転換」を加速するため、AIやロボット技術を駆使したスマート農業などの導入により、人口減少下でも生産力を維持・拡大できる生産体制を早期に確立していく必要があります。

令和4年度は、消費者からの期待が高い秋田米新品種「サキホコレ」が本格的に市場デビューします。当管内では全県の2割の作付けが計画されており、各JAの指導チームや生産者と連携を図り、現地巡回指導や研修会を含め濃密指導を展開しています。今後は、「秋田米新品種ブランド化戦略」に基づき、全国トップブランド米の地位を確保できる強固な産地形成を図ります。

当農林部といたしましても、園芸メガ団地等の整備により、えだまめやねぎなど「日本一」を目指す品目の生産拡大やたまねぎなど地域の特色を活かした産地づくりを進めるとともに、「秋田牛」

の生産基盤の強化・拡大等を推進しており、今後も引き続き、生産者の意欲と地域の特色を活かした産地づくりをすすめ、収益性の高い複合型生産構造への転換を支援してまいります。

林業関係については、防災・減災のために荒廃山地等における住民生活の安定を図るうえで必要な施設整備や長寿命化対策、保安林整備を進めて行くほか、森林施業の基盤となる林業専用道及び作業道の整備を進めながら、高性能林業機械等の積極的な導入を図り、間伐や皆伐再造林等を促進し、低コストで安定的な原木生産と森林資源循環利用体制の構築に取り組んでまいります。

土地改良関係については、効率的で収益性の高い農業経営を実現するため、スマート農業の導入を見据えた大区画化・汎用化と併せ、農地集積や園芸メガ団地等の産地づくりと一体となったほ場整備を重点的に進めてきており、その成果も着実に現れてきています。

また、農業水利施設や漁港海岸施設の老朽化が進展する中、ため池の整備や水利施設の保全管理・機能強化など、地域の安全・安心の確保に向けた対策を進めております。

最後になりますが、新しい年も引き続き、貴協会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、なお一層のご活躍とご繁栄を祈念いたしまして、年始の挨拶といたします。



防災林造成事業(海岸防潮堤) 潟上市一向地区



農地集積加速化基盤整備事業 男鹿市理禰地区



年頭のご挨拶

秋田港湾事務所長
千葉政幸

謹んで新年のお慶びを申し上げます。新年が幸多き年になりますよう心より祈念申し上げます。また、日頃より県内の社会資本整備にご尽力いただくとともに県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、秋田港では、脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの切り札として位置づけられている洋上風力発電事業について、秋田県が平成27年に公募選定した事業者により港湾内において海上工事が昨年から行われ、本年12月には、日本国内で初の商業ベースでの運転開始となる予定であります。また、一般海域についても、すでに複数の事業者により環境アセスメント調査が進められており、国においても再エネ海域利用法の施行により、促進区域の指定、公募占用指針の作成、事業者による公募占用計画の提出と手続きが順調に進められております。そして、港湾内及び一般海域での洋上風力発電工事を進めるにあたって、設備の組み立てや運搬、メンテナンスを行うための拠点港湾（基地港湾）として、秋田港及び能代港が全国で初めて指定され、再生可能エネルギー分野については、新たな産業の創出など今後の秋田県の成長を図る上で、欠くことのできない可能性を有しております。

一方、近年は国内外の大型クルーズ船も次々と寄港し、増加してきたことから、クルーズ需要に対応するため、クルーズターミナルの供用、クルーズ列車の運行を開始してまいりましたが、世界的な新型コロナウイルス感染症により、昨年、一昨年と2年連続でクルーズ船寄港がゼロとなりました。現在は、ワクチン接種が進み、全国的にクルーズ船再開の動きが活発化してまいりました。今後は、感染症対策を行いながら、広域観光の拠点として港の賑わいによる地域経済の発展に大きく寄与してまいります。

また、県内の産業及び県民の暮らしを守るため、安心・安全な港湾であるために、廃棄物埋立護岸や津波避難施設など、港湾機能の維持や整備強化について引き続き努めてまいります。

このように未来に向けて県民の皆様が寄せる期待を受け、そこから見える明るく可能性に満ちた秋田県を次世代に確実に引き継ぐため、新時代のゲートウェイにふさわしい秋田港の港づくりを進めてまいります。

最後になりますが、皆様のご健勝とご繁栄、そして新型コロナウイルス感染症の早期の終息をお祈りしまして、年頭のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

船川港湾事務所長
伊藤俊美

新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え、会員の皆様のご健勝とますますのご繁栄を心よりお祈り申し上げますとともに、日頃から当港港湾行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当事務所は重要港湾の船川港及び避難港である戸賀港における航路や泊地、臨港道路、防波堤等の港湾施設の管理、施設整備を行っております。船川港は、木材や原油等の物流拠点としてだけではなく、マリーナ施設やマリナーパーク、クルーズ船寄港地など、男鹿半島の観光、海洋性レクリエーションの拠点としての役割も期待されております。

地元男鹿市では各種イベント開催に力を入れておりますが、昨年度は、当事務所が管理しております通称「ヨノ字埠頭」において毎年7月に開催され、国内有名アーティストが出演する「男鹿ナマハゲロックフェスティバル」や、毎年8月に「金川多目的広場」で開催されお盆の風物詩となっている「男鹿日本海花火」、クルーズ船の寄港等が新型コロナウイルスの影響で2年連続で中止となってしまう、たいへん盛り上がり欠けた男鹿の夏となってしまいま

した。そんな中、男鹿市では令和3年9月に「船川港港湾ビジョン策定委員会」を立ち上げ、港湾を核とした地域産業の活性化に向けて、船川港が目指すべき将来の姿を「船川港港湾ビジョン」として令和4年3月公表予定で策定中であり、地元男鹿市の船川港に対する熱意を感じているところです。

さて、今年は例年実施しております港湾機能維持のための泊地浚渫や施設修繕等のほか、令和元年から着手しております本港地区船揚場改良工事を引き続き行うなど、地元男鹿市が船川港とともに、なお一層発展しますよう港湾機能の整備強化に努めて参ります。

また、令和2年3月に「オガレ」向かい側に完成した「津波避難タワー」は常時開放しておりますので、会員の皆様方も男鹿に来た際は一度足を運んで頂ければ幸いです。

最後になりますが、新しい年が会員の皆様にとりまして、新型コロナウイルスを吹き飛ばし、さらなる飛躍の年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年のごあいさつ

秋田空港管理事務所長
湯沢 範久

新年明けましておめでとうございます。

新年を迎え、会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日ごろより当空港の事業推進に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当空港は昭和56年6月の開港以来、昨年の6月で40周年を迎えました。開港当初は、東京、札幌、大阪への3路線で1日9往復18便でスタートしましたが、現在は、東京、札幌、大阪、名古屋への4路線で、1日21往復42便の定期便が就航しております。

定期便の利用者は、平成21年から令和元年まではおむね順調に増加しておりましたが、ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため県外との移動の自粛や、それに伴う減便の影響もあり、令和2年は開港以来最低となったところでもあります。令和3年も大変厳しい状況であり、1日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、以前のような多くのお客様で賑わう空港に戻ることを切に願っております。

さて、当事務所では「安全は全てに優先する」との方針のもと、秋田空港安全管理計画を策定し、制限区域内の事故をゼロに抑えるとの安全目標達成のため、日々、

空港施設の維持管理に努めております。

空港施設につきましては、滑走路や航路灯火等の改良工事など、施設の改修を計画的に進めております。また、空港利用者の利便性の向上を図るため、昨年度は立体駐車場から精算機までの走行経路の見直しを行ったところであり、今年度は駐車料金のキャッシュレス化を図ったところであります。

施設運用につきましては、降雪期の遅延や欠航を減少させるため、「雪戦隊なまはげ」と命名した除雪隊が、滑走路等の除雪時間を国内最速級の30分に短縮することを目指し除雪に当たっております。

今後も安全で安心な空港の維持に万全を尽くし、空の玄関口として多くのお客様に御利用いただけるよう努めてまいりますので、会員の皆様には引き続き御支援・御協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が協会並びに会員の皆様にとりまして、さらなる御活躍と御発展の1年となりますようお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます 令和四年 元旦

技術力の向上による良質な社会資本の整備を通じて
秋田地域(秋田市・男鹿市・潟上市・南秋田郡)の発展に貢献し
災害等への迅速な対応で、地域の皆様の快適で安全な生活を守ります

一般社団法人 秋田中央建設業協会
〒010-0951 秋田市山王4丁目3-7
TEL018-862-7778

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 会 長 加藤 義光 | 理 事 菅原 廣悦 | 理 事 石塚 英公 | 監 事 加藤 政之 |
| 副会長 齊藤 豊隆 | 理 事 渡辺 憲介 | 理 事 伊藤 仁 | 監 事 加賀屋 篤 |
| 副会長 長谷川 尚造 | 理 事 伊藤 満 | 理 事 珍田 伸一 | 監 事 佐々木 茂美 |
| 理 事 三浦 稔 | 理 事 佐々木 創太 | 理 事 菅原 孝次郎 | 相談役 加藤 憲成 |
| 理 事 沢木 則明 | 理 事 小南 淳 | 理 事 伊藤 久嗣 | 顧 問 菅原 三朗 |
| 理 事 平野 久貴 | 理 事 加藤 正己 | 理 事 板橋 広光 | |